名鉄ハイキング　　2005.11.27

いちよう色に染まる町 祖父江

名鉄の電車沿線ハイキングを見ていたら、いちよう黄葉まつり祖父江　コースというのが目に付いた。紅葉を見に行くと、緑や黄色があってこそ美しさがきわだつものだ。もみじばかりの紅葉も綺麗だが、山の紅葉は緑があり黄色こそが主役ではないかと思っていた。そこで、いちょう黄葉まつりが開かれている祖父江のハイキングに 27 日参加した。

初めて名鉄尾西線を利用

コースのスタートになる森上駅までの行き方を調べると、意外なことに名鉄を利用した方が安い。

当初はJRで一宮まで行き、尾西線に乗り換えれば良いと考えていた。でも金山で名鉄に乗り換えた方が安くて到着時間も同じだった。JR400円、名鉄590円の990円なのに、一宮までJRで行くと740円と290円で1030円だった。東浦駅を8.17”の区間快速で金山まで行き、名鉄に乗り換えさらに一宮で尾西線に乗り換えのためホームに降りた。
幸い尾西線は同じホームの反対側から発車するので、乗換えが楽でいいと思っていたらとんでもない.....ものすごい人だかりがそのままホームに残っているではないか。しかもアナウンスだと電車は2両編成と言う、乗れるのかと心配になるほど。それでも何とか乗り込みやれやれ。
森上駅に9.41”到着し、案内の地図をもらい大勢の人が流れるようにスタートして行く。

田園地帯を通り木曽川をめざす

　駅をスタートするとそこは田園がそこここにあるのどかな町だった、そして家々の庭や畑には黄色くなったイチョウがたくさんある。
また稲沢市だけに植木の苗がたくさん見られる、畑も立派な野菜が一杯だ。特に人参、白菜、ブロッコリーなどが多い。そしてでかくて立派なものばかりだ、さすがプロは違うと感心した。
しばらく歩くと立派な建物がある、体育館と図書館で入館を待つ人がならんでいた。その脇を進み交差点に出ると祖父江中学校、そして旧祖父江町役場跡つまり稲沢市役所祖父江支所がある。その前の広い道路を横切り小道に入り路地を進むと、道路わきに地図にある工場が見えてきた。
なかなか大きな工場だが何の工場かは分からない、その前を通り木がこんもりと茂った小道に入ると緑と黄色が混じりとても美しい。緑と黄色のトンネルを出ると堤が見えてきた。木曽川の堤防に着いたのだ、コースはここから右折するのだがちょっと寄り道して堤防に上がってみる。

人参畑をいく

木曽川の堤

とたんに視界が広がり川原では多くの人がキャッチボールをしている。遠くには堰がみえる、すばらしい大パノラマを前にお茶とお菓子で休憩。この時がまさに至福のひと時と言えるものだろう。木曽川はゆったりと流れ祖父江の町をうるおし、人々の心を癒して伊勢湾に注いでいく。ひと時も休まずながれていく川を見ていると、自然の雄大さとそのパワーに圧倒される。

祖父江観音「刈萱堂」にお参りする

堤防下の道を少し行くと霊園になっていて、その前の広場に事務局の人たちがいてラッキーカードを渡してくれる。どうやらこのあたりが中間地点らしい。私の NO は 002372 妻は 002373、果たして幸運は舞い込むのか? このあたりは堤防の斜面の陽だまりなので多くの人がすでに弁当をひろげている。温かい陽射しを浴びながらの休憩は幸せを感じることだろう。
この堤防下の道を右折するとそこはワイルドネイチャープラザというバーベキューやウォータースポーツが楽しめる公園だ。木曽川祖父江緑地という県下 8 番目の県営都市公園の一角に位置している。
ここから右手を見ると遠くに工場があり王子製紙の看板が見えた、来る時にあった工場もきっと王子製紙なのだろう。祖父江緑地の広い歩道からは真っ赤に色ずいた紅葉や、ハナミズキの紅葉がきれいだ。その隣少し小高い所に刈萱堂がある。幟旗が立ちボケ除け寺の案内がある。これを見て妻は「早速お参りしなくては」と私を誘った。

うなずいて、私も生きているうちは健康でいられるようにとお参りした。

刈萱堂

祖父江緑地公園

ここ尾張七福神 寿老人霊場 祖父江観音刈萱堂は寿老人をお祀りするボケ除けと長寿祈願のお寺といわれている。1 月 18 日には「大根たきまつり」が行われる。古来より大根は中風. ボケ除けによいといわれ、当日は大鍋でたく大根をふうふういいながら食べ一年中のボケ除け健康長寿を祈願する行事だ。

祖父江善光寺にお参り

大通りから外れ小道へ入っていくと、郵便局の前を通りしばらくして祖父江善光寺に着く。遠くからでもきわだつ建物はさすがに大きく、威風堂々とした立派なお寺さんである。境内に入るとすでに大勢の人たちであふれている、とにかくお参りをしなくてはとお賽銭 10 円で家族の健康と息子の縁談がまとまりますようにお祈りした。ちと頼みすぎたかもしれない.....。よく、お寺さんは死んでからのことをお願いし、神社は生きているうちのことをお願いするとか。でも神も仏も人の不安を打ち消すために、人が創りだしたわけだからどちらでもいいのではないのかな。

この祖父江善光寺は、信州善光寺の東海地区の別院として明治の末に創建された。信州善光寺の 2/3 の大きさを誇る本堂内には、極楽をこの世で拝める戒壇めぐりがある。参拝は無料でもこの戒壇めぐりは大人 300 円、小人 150

円必要である。つまり極楽へいくには生きている内からお金を積むことが功徳になるらしい。

祖父江善光寺

地獄の沙汰も金次第である。この料金もほんとは志として金額は自由に決めるのが筋ではと思うのだが違うのかな?　神や仏のことはおろそかにする気はないがよく分からない。

ゴールはいちょう黄葉祭り会場の祐専寺

　善光寺を跡にゴールである祐専寺に向かう、途中はのどかな田園地帯が続きいたる所にイチョウの木がある。黄葉の下をあるいは遠くに眺めながら暖かな陽射しを浴びて歩くと、ほんのり汗ばんでくる。ここでひとつ分かったのは、イチョウの木は真っ直ぐ上に高く伸びるとばかり思っていたが、桜と同じく**枝垂れイチョウ**の木があるのだ。
それにしても祖父江の町は、どうしてイチョウの木がこんなに多いのか!!銀杏の収穫はとても実入りがいいのでこれだけ多くなったのだろうか、イチョ

ウの木の好きな人たちばかりなのか、いずれにしても町のセールスポイントになるまでに指導してきたリーダーがいたのだろう。町おこしの取り組みとして進められたに違いないが、やはり立派なリーダーがいるかいないかで大きな差となる。でもそのリーダーを選ぶのは一人一人の住民だ。

イチョウ祭りの幟

枝垂れイチョウ

　そして祐専寺に着いた、ゴール受付にラッキーカードの当選番号が張り出されている。見ると下一桁 1,4,6 とある。がっかりだ、でも参加賞のポカリスエットがあった。それとインターネットで調べたさいにアンケートがありそれを出して竹炭がもらえた。

　会場からすぐの所に名鉄山崎駅がある、小さな無人駅だがすでにホームからあふれんばかりの人だ。イチョウ祭りのため特別に 3 人の駅員が出張して切符を売っている、その内の一人がお客さんとお喋りしながら、押さないでくださいと呼びかけているのだが、そのお喋りが巧みで早く乗りたいという気持ちをなごませている。いわく「今日はいつもの 2 年分のお客さんに利用してもらいおお助かりですわ」、電車が見えてくるとホームの端に立ち「ここで押さないでよ」　おかげで電車が到着しても皆が押し合うこともなくスムースに乗車することができた。

　今回の名鉄ハイキングは案内標識もしっかりしており、自然やお寺さんめぐりもありよかった。ただ参加者の多さにはまいった。